

「教職実践演習」に向けた取り組み

～ 学士課程教育の改善と教員養成教育 ～

フォーラム2010

『教職実践演習に向けたカリキュラム開発』

平成22年11月5日(金) アスティ45ビル 4階 アスティホール

愛媛大学教育学部 山崎哲司

話の流れ

1. 「教職実践演習」に関する議論
教員養成カリキュラム専門委員会
教育コーディネーター制度と教育改革
「教職課程のディプロマ・ポリシー」
2. 「リフレクション・デイ」
教育学部のカリキュラム改革と全学的教員養成
「リフレクション・デイ」の試行
3. 「教職課程学習ポートフォリオ(教職ポートフォリオ)」
ポートフォリオの導入
教職ポートフォリオ
4. 今後の取り組みと課題
「教職総合センター」の設置
FD活動と今後の課題
5. その他

1. 「教職実践演習」に関する議論

教員養成カリキュラム専門委員会

- 平成18年度の夏に、全学的な教員養成に対応するため（「教職実践演習」への対応を意識して）、教育・学生支援機構内に設置
- 構成メンバーは、原則として各学部の「教育コーディネーター」（私は機構の教育コーディネーターで、かつ昨年度までは教育学部の教育コーディネーター）
- 審議の過程で「教職実践演習」に関する各学部教育コーディネーター等への周知がなされたため、**教員養成の大きな改革が必要という理解が全学的に進んだ**
- 「教職実践演習」の内容や実施方法等については、各学部の教育コーディネーター会議と連携しながら教員養成カリキュラム委員会で審議し、全学で方針を統一して、学部を越えて実施することにした

教育コーディネーター制度と教育改革

教育コーディネーターは、教育内容及び教育方法の改善の企画・立案、教育効果の検証、教員の教授能力の向上などを業務とする**教育重点型教員**である。平成19年度からは、大学として改革の方向性について共通認識を持つための**教育コーディネーター研修会**を実施している。

➤平成19年度(年間5回)開催

「学士課程の体系化 ~ **ディプロマ・ポリシー**、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー(DP, CP, AP)の策定と一貫性構築 ~」

➤平成20年度(年間4回)開催

「カリキュラムの体系化と授業改善 ~ **カリキュラム・マップ作成とティーチング・ポートフォリオ開発** ~」

➤平成21年度(年間4回)開催

「学士課程教育の体系化 ~ カリキュラム・アセスメントと単位制度の実質化 ~」

➤平成22年度(年間5回)開催(予定)

「PDCAサイクルと単位制度の実質化」

「教職課程のディプロマ・ポリシー」

平成19年度から20年度にかけて、**全学でDPの作成**

教育学部の教員養成課程については、“**DPが養成する教員像**を表し、DPの**達成状況を確認するのが「教職実践演習」**である”，と
考えて作成した



教員になる学生に共通するDP(課程認定大学として養成する教員像)として**「教職課程のDP」**を作成

“養成する教員像”に沿った、「全員に習得させる(すなわち、**最低限身につける**)べき資質能力がDPである

【全学的なDPの作成方針】

・理念的な(モットーのような)ものとはしない

『教職に対する強い情熱と教育の専門家としての確かな力量を有し、総合的な人間力を備えた人材を育成します』などは不適切

・ **ができる, ××を身につける, など, できるだけ**具体的で, 評価が可能な到達目標**で記述する**

教科・教職に関する幅広い基礎知識と、得意分野の専門的知識を有している。学校現場で生じている問題を始めとして地域や社会全体に関わる課題について、適切な対応を考え議論することができる。

児童・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。

実践から学び、自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた学習ができる。

教育的愛情を持って児童・生徒に接することができるとともに、多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

【DPを達成するための学習(指導)】・「**教職実践演習**」につなげるために愛媛大学教育学部でも、カリキュラムとして目指しているのは「**理論と実践の往還**」であり、他学部生についても、求める(推奨する)学習方法は、同じである。

理論(授業)だけではなく、実践(教育体験活動)からも学びを深めて欲しい。ただし実践活動だけが重要なのではなく、実践をふりかえる「**省察**」と、その省察を通して実践と理論を結びつけて考え、また課題を見つけて、次の学習に臨むことが重要である。

2. 「リフレクション・デイ」(省察日)

教育学部のカリキュラム改革(コア科目)と全学的教員養成

年次		科目群	実習・省察科目群			現代的課題・講義科目群
			教育実習科目群	省察科目群	地域連携実習科目	
4年次	後学期	教育実習 (選択:他校種) 応用実習	教育実践演習	地域連携実習 (インターンシップ型)	教職教養課題特講 (課題別ワークショップ)	
	前学期		リフレクション・デイ			
3年次	後学期	教育実習 , (必修)	リフレクション・デイ	地域連携実習 (アシスタント型)	教職教養課題特講 (学校・地域連携)	
	前学期		初等省察研究/ 教育実践演習			
2年次	後学期	ブレ教育実習 教育実践体験実習 (ふるさと実習)	リフレクション・デイ	地域連携実習 (参加型)	教職教養課題特講 (学校教育)	
	前学期		実践省察研究/ 教育実践演習			
1年次	後学期		実践入門	地域連携実習 (ふれあい型)	特別支援教育概論	
	前学期	観察実習(初年次科目)				

実習科目

省察科目

自由選択の実
践活動

実践講話科目

教育学部で進めてきたカリキュラム改革
【カリキュラムに自由度を持たせて多様な資質能力を育てる】



課程認定大学として、責任を持った教員養成を行う

教育学部以外の教職課程を含めた全学的な教員養成へとカリキュラム改革を拡大する

教育学部のカリキュラム：

核となる科目を体系性を持たせながら配置する。しかし履修に自由度をもたせ、一律の学習を必修としては課さず、カリキュラム・マップなどを用いながら履修モデルを示し、随時履修指導を行う。

他学部のカリキュラムと教職課程

各学部のカリキュラムを尊重しながら、「教職課程のDP」を達成するための学習を課す→学習の機会を用意すると共に、強い「履修指導」の機会が必要である

「リフレクション・デイ」の設置

「リフレクション・デイ」の試行

【平成22年2月20日実施】

教育学部3回生42名，法文学部3回生4名，理学部3回生17名

1) 学習状況の振り返り

「学習状況記録シート」の記述。次の5つの区分について，それぞれが学習したことを書き出してみる。 教職科目， 教科科目， 専門科目， 実習・ボランティア， 自主学習による成果

2) 実践講話

松山市教育委員会学校教育課田中祐二指導主事による実践講話。
生徒指導を主体とした内容であった

3) グループワークとレポート作成

講話内容に関して，感想や意見交換を4人程度のグループで話し合い，その後，学んだことや意見をレポートとしてまとめる

4)自己評価シート

教職課程のディプロマポリシーに関連した自己評価。「教職課程のD P」の5項目に対して、それぞれ3～5の指標を設定し、その指標についての現在の自分の力を5段階評価する。

5)学習計画

自己目標(今後の学習計画を含む)を記述。



“試行”であるため、予想通りではあるが、自己の学習をふりかえりを行うための材料が、ほとんど無い状況であった。→**学習ポートフォリオの必要性**

3. 「教職課程学習ポートフォリオ(教職ポートフォリオ)」

ポートフォリオの導入

愛媛大学では現在,教育・学生支援機構を中心に2つ(+1)のポートフォリオに取り組んでいる

ティーチング・ポートフォリオ (教員)

スタッフ・ポートフォリオ (職員)

については,各部署の管理職は今年度中にほぼ全員が書く予定と聞いている。

については,教育・学生支援機構所属の教員を中心に作成しているが,教育学部でも現在までに8人が作成をした。私は昨年度の8月に作成し,その後に2回,メンター役をしている。

“ポートフォリオ”は「記録・資料を集めたもの」ではなく,『自己省察と,そのための根拠資料』である

ラーニング・ポートフォリオとしての「教職課程学習ポートフォリオ」作り

教職ポートフォリオ

学習の点検と成果の確認をするための“学びの履歴”
自己の成長をふりかえるためにも活用するもの

「大学で何を学んだか」を示す物であり、教員にならない学生にも有用

「教職ポートフォリオ」を構成する3つのログ：

ラーニング・ログ（学習記録）：講義等

プラクティス・ログ（実践体験記録）：実習等

リフレクション・ログ（省察記録）

と が基本的な“学びの履歴(記録)”

はリフレクション・デイの作業内容を中心とするもの

(, に基づく資質能力の点検と学習計画の記録)

別資料を参照

現在WEB化を進めており、来年の4月から運用開始(予定)

学習歴登録

下線欄は項目名をクリックでソートされる。初期表示は、教育課程表マスターの並び順。

フォーマットを選択して登録する

フォーマット名	科目名(活動名)	教員	単位	評点	成績	年度	期		登録状況
ラーニングログ	教職基礎論	愛大太郎	2	93	秀	07	後	参照	登録済
ラーニングログ	初等国語科教育法	愛大花子					前	登録	一時保存
プラクティスログ	幼稚園教育実習I		4	84	優	09	後	登録	未入力
プラクティスログ	家庭教師							参照	登録済

登録後、ボタンは「参照」へ。

授業科目に紐づかない科目は一時保存・登録後一覧表示される。テキスト入力項目(科目名表示用)に登録されたテキストを表示する。

不合格科目(不可・評価しない)はグレーの網掛け表示。

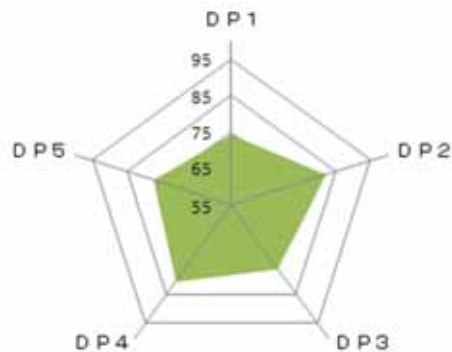
🏠 学習歴集計値を参照する

フォーマット名	登録状況	
	件数 (科目数)	単位数
ラーニングログ	13	26
プラクティスログ	1	2
リフレクションログ	2	

リフレクション・ログの活用に必要なデータ(客観性を持つもの)

・教職科目の成績資料

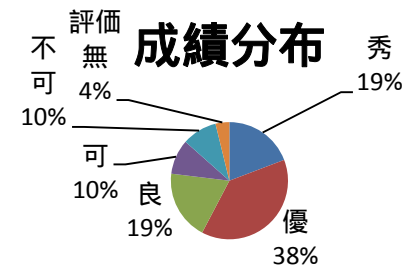
DPと対応させて
習得状況を累積



学校教育教員養成課程 (教職科目等)		教職課程のディプロマ・ポリシー(DP)					
授業科目名	担当者名	単位数	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
教職科目A							
教職基礎論		2					
教育制度論		2					
教育制度論		2					
教育方法論		1					
特別活動論		1					
教育本質論		2					
道徳教育指導論		2					
発達と学習		2					
生徒指導論		2					
教育相談論		2					

・専門教科の成績資料・・・取得単位と評語の割合(GPA)

・自己評価シート記入時における、『評価の目安』



4 . 今後の取り組みと課題

「教職総合センター」の設置

設置の趣旨

教員の資質向上, 教員養成のさらなる充実という社会的要請に応え, 学部や専門を越えた教員間の連携・協働が必要とされる「教職実践演習」「履修カルテ」の導入に対応し, さらに現職(教員)研修などの多様な地域連携を推進するために, 愛媛大学における教員養成の諸事業を統括する「教職総合センター」を全学センターとして設置し, 教育実践力のある教員を養成する体制を整備する。

「教職総合センター会議」

愛媛大学独自の教員像や到達目標, 教職指導のあり方および指導体制についての基本方針, 教職教育における地域連携のあり方等を審議・検討する「教職総合センター会議」を設置する。なお, 教職総合センター会議は, 教職総合センターの教員と, 各学部に配置される教職コーディネーターを統括する「統括教職コーディネーター」を構成員とする。

教職総合センター

<センター業務>

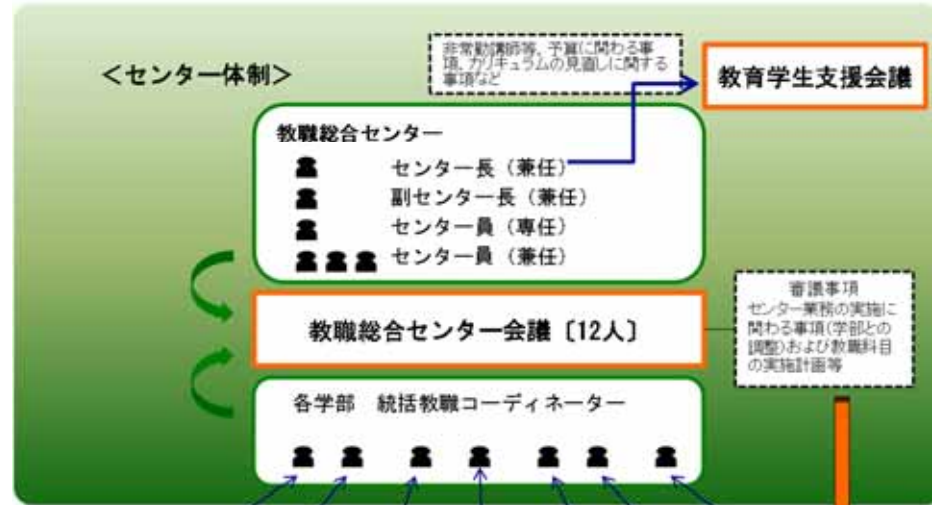
教職教育領域

- ① 教員養成カリキュラムの総合的研究とカリキュラム改善に関する企画・立案
- ② 教職指導に関する指針の策定
- ③ 教職教育全般に関する点検と改善策の立案
- ④ 「教職実践演習」及びリフレクション・デイの実施に関するコーディネート
- ⑤ 「教育実習」のプログラム開発とコーディネート
- ⑥ 実践プログラムに関する企画・立案

地域連携領域

- ① 教育委員会・地域教育機関・教育現場との連携協力
- ② 教育に関する各種研修(教員免許状更新講習等)のコーディネート
- ③ 教員のメンタルヘルス相談及び教育相談事例への指導助言

<センター体制>



<課程認定学部・学科>

法文
人文学科

法文
総合政策

教育学部

理学部

工学部

農学部

医学部
看護学科

教職コーディネーター会議：学部における教職課程に関わる事項全体を審議・検討する機関
 教職コーディネーター：各学部3～5人程度(うち1人は教育コーディネーター/教務委員を含む)
 主要業務：教職指導、教職実践演習及びリフレクション・デイの実施と評価、教育実習校との連携、
 教員免許状更新講習などの各種研修等、学部の教職課程全般についての調整を行う

各学部における組織：「教職コーディネーター」及び「教職コーディネーター会議」

教職コーディネーターは、各学部における教職指導に責任をもち、「教職実践演習」及びリフレクション・デイの実施と評価、教育実習校との連携等、当該学部の教職課程全般についての調整を行う。教職コーディネーターの人数に関しては3～5人をめどにして、各学部の実情に応じて適宜配置する。また、学部における教職課程に関わる事項全体を審議・検討する機関として「教職コーディネーター会議」を設置する。

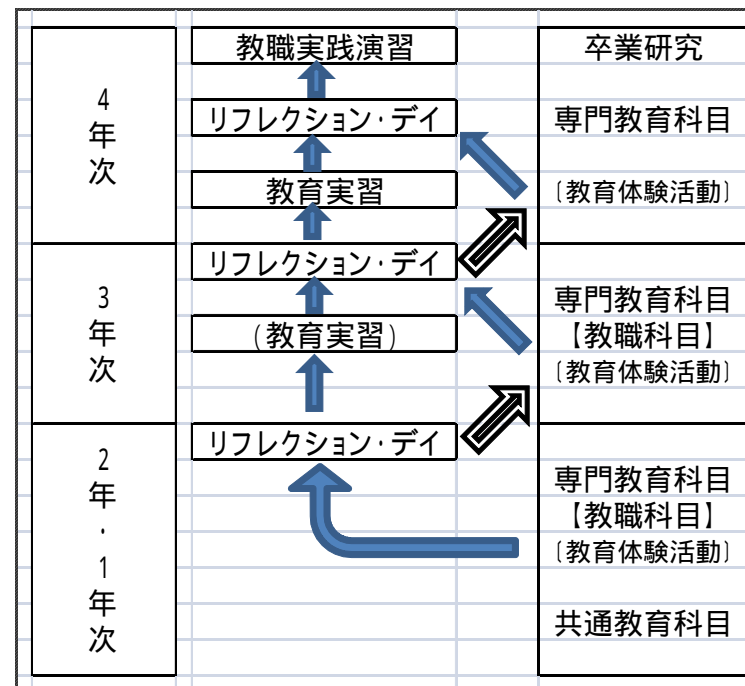
F D活動と今後の課題

リフレクション・デイを活用しながら「教職実践演習」へつなげる

リフレクション・デイのふりかえりを活用し、各学生を指導する教員が、学習の指導を適切に行う(右図の右向き矢印)ことも重要である



重要な役割を持つのが各学部の「教職コーディネーター」



『教職コーディネーターは、各学部における教職指導に責任を持つ』が「教職のことなど何も分からない、何をして良いか分からない…」などの声が各学部から出ることもある。

→「教職指導の手引」の作成を開始

「教職科目」が専門科目であること、「教職指導」も各教員が責任を持つべき指導学生に対する学習指導の一つであることを認識し、養成する教員像の共有化を図り学生指導の要点を伝えるためのFD活動が重要。

養成する教員像

具体的には、「教職課程のDP」に示される資質能力を有することが“基本”となる

加えて、やや理念的に言えば、『実践から得たことや見つけた課題を理論と結びつけながら学びを深める、という姿勢を身につけ、教職に就いた後でも、常に学び続けるという意識を持った教員』の養成を目標とする

教員養成改革の推進

“実践からの学び”を積極的に行いながら、「リフレクション・デイ」などの『ふりかえり(省察)』と『自己教育課題を念頭に置いた学習』による教員養成教育へ

主な課題

1. 実践の拡大(「理論」と「実践」の両輪からなる教員養成を)

「地域連携実習」(教育体験活動)

愛媛大学教育学部で平成10年度から実施してきた活動であり、大学周辺を中心とした小・中学校、附属校園、社会教育施設、公民館、幼稚園、高校等で、子どもと関わり、また学習支援に関わるなど多様な実習を行っている。

活動の省察

「計画書」：自己目標を立てて参加する

「報告書」：目標に照らし合わせ自己評価(5段階)、なぜその自己評価になるかを活動内容をふり返りながら記述し、できるだけ専門的知識と関連づけて省察を行う

平成20年度後半から、教育学部以外にも活動への参加を積極的に呼びかけているが、まだまだ参加者は一部である

2. 「リフレクション・デイ」, 「教職実践演習」の担当方法

「教職コーディネーター」が責任を持ってコーディネートをする

ただし, 「教職総合センター」は, 始まったばかりの組織であるため, 円滑な運営に至るまでには時間を要する

「教職総合センターができれば, **そこが全てを担ってくれる**」と思っている教員が少ないと思われる

「教職ポートフォリオ」についても, 周知が不十分である

『学士教育の充実』が重視され進められる中, 教員養成の教育をその一つと位置づけ, **大学全体の教育改革と連動させながら, 課題に取り組んで行く**

“教員養成に特化し過ぎない”教育改革の中で, 全学的な協力体制を作り, 「教職実践演習」に対応する

その他

時間の許す範囲で、シンポジウムの感想などを...

貴重な機会を与えていただき、
ありがとうございました

